

旧しごと館再生へ始動

府は4日、2010年に閉館し、今年4月に国から無償譲渡された職業体験施設「私のしごと館」(精華町、木津川市)に入居する企業2社が決まったと発表した。記者会見した山田知事は、ようやく第一歩を踏み出した。日本の将来を支えていくような研究拠点にしていきたい」と述べた。府はこれを呼び水に、利用企業などを増やしたい考え。約4年半にわたって「空き家状態」だった巨大施設は、ようやく再生に向けて動き出す。(今津博文)

入居企業2社決まる

コンピューター関連など



閉館から4年半が過ぎ、廃墟と化した旧「私のしごと館」。研究拠点KICKとして新たな一歩を踏み出す

入居するのは、コンピューター関連の大学や専門学校を運営する学校法人京都市情報学園(左京区)と、電気通信事業を展開する日本テレネット(中京区)。

来年8月に入居する京都市情報学園は来春からホームページなどのアドレスに使用できるドメイン「myjob.or.jp」(ドット京都)の運営管理事業者となるため、維持管理を行う「サイバー京都研究所」を開設。インターネット上で有害サイトを排除し、京都ブランドの構

築を目指す。また、各大学の講義などを世界中にネット配信する計画もある。日本テレネットは来年4月から事業を開始。屋上約8600平方メートルに太陽光発電パネルを設置し、発生した直流電流をオフィス用電源として利用するなどし、電気代を今の半分程度に抑える技術開発を行う。また、

発光ダイオード(LED)照明を使った植物工場を設置し、難しいとされる根菜類の栽培の実用化を進める。旧「私のしごと館」(鉄筋3階建て、延べ約3万6000平方メートル)は、厚生労働省が雇用保険料約580億円を投じて03年にオープンしたが、多額の赤字運営が批判され、10年に閉館。その

後も毎年約5000万円維持費がかかっている。府は、名称を「けいはんなオープンイノベーションセンター」(KICK)改め、健康医療、エネルギー・情報通信技術、農業食料、文化・教育の研究点にする方針を示し、大企業の入居を募った。

土砂災害情報精度アップ 過去データ検証依頼へ

大に京研
府、京防

広島市北部で起きた土砂災害を受け、府は土砂災害警戒情報などの精度を上げるため、京都大防災研究所(宇治市)に、過去に発令した同情報と災害の関係などの調査を依頼することを決めた。11日開会の府議会に提出する一般会計補正予算案に調査委託費500万

円を盛り込んだ。市町村が避難勧告や避難指示を出すタイミングは、都道府県と気象庁が発令する土砂災害警戒情報が参考になる。府内でも、8月の局地豪雨で福知山市などで浸水や土砂崩れが発生しており、実際の土砂災害と警戒情報の内容について検証してもらったことになった。

府砂防課は、降雨状況の変化や危険箇所の地質についても同研究所に分析してもらおう考えで、「専門的な見地から、アイデアをもつて被害の軽減につなげたい」としている。

京都市など見舞金
福知山市

京都市の藤田裕之副市長は4日、局地的豪雨で大きな被害を受けた福知山を訪れ、「府内の同じ市として、できるだけ支援していきたい」と見舞金1万円を贈った。松山正治市長は、市内の被災状況を

国宝や重要文化財を修復してきた表貝店「宇佐美松鶴堂」(下京区)で7月から研修を受けているフランス人のアストリッド・モロ

1さん(27)が初めて制作した掛け軸が、5日から始まる

完成した掛け軸を手にするモロ1さん(下京区)

道守る



に、りを人ま妙はと、てのとがこち話前あさるき神。ちどせ、つ間」。足。、と